

# SDGs未来都市等進捗評価シート

2018年度選定

徳島県 上勝町

2021年8月

**SDGs未来都市計画名**

上勝町 SDGs 未来都市計画

自治体SDGsモデル事業  
又は特に注力する先導的取組

—

## 1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

## (1) 計画タイトル

上勝町 SDGs 未来都市計画

## (2) 2030年のあるべき姿

- ①彩山（いろどりやま）を活用した産業振興  
 ②農林水産業における新規就業者の促進  
 ③ゼロ・ウェイストブランドを活用した循環型まちづくり事業  
 ④四季を通じた滞在体験型の観光・研修・交流の促進  
 ⑤若者の就職支援と後継者の育成  
 ⑥持続可能な美しいまちづくりの推進  
 ⑦ゼロ・ウェイスト施策の推進  
 ⑧生涯現役で活躍する健康長寿の形成

## (3) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた優先的なゴール

| 経済  | 社会  | 環境  |
|---|---|---|
| ゴール2 ターゲット2.3、2.4<br>ゴール8 ターゲット8.3、8.9<br>ゴール15 ターゲット15.2 | ゴール3 ターゲット3.4<br>ゴール4 ターゲット4.4<br>ゴール8 ターゲット8.3、8.9<br>ゴール11 ターゲット11.c<br>ゴール15 ターゲット15.2 | ゴール9 ターゲット9.4<br>ゴール12 ターゲット12.5、12.a<br>ゴール13 ターゲット13.2<br>ゴール17 ターゲット17.7、17.17 |

## (4) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

| No | 指標名<br>※口内はゴール・ターゲット番号                          | 当初値                | 2020年（現状値）       | 2030年（目標値）        | 達成度（%） |
|----|---|--------------------|------------------|-------------------|--------|
| 1  | 葉わさび出荷数量【2.3、2.4、15.2】                          | 2018年3月 8,787 kg/年 | 2020年 3,500 kg/年 | 2030年 12,000 kg/年 | -165%  |
| 2  | 林間葉わさび作付面積【2.3、2.4、15.2】                        | 2018年3月 0 ㎡（累計）    | 2020年 500 ㎡（累計）  | 2030年 1,000 ㎡（累計） | 50%    |
| 3  | 新規就農者数【8.3、8.9】                                 | 2018年3月 5 経営体増（累計） | 2020年 7 経営体増（累計） | 2030年 15 経営体増（累計） | 20%    |
| 4  | 新規起業家人数【8.3、8.9】                                | 2018年3月 5 人（累計）    | 2020年 11 人（累計）   | 2030年 15 人（累計）    | 60%    |
| 5  | 起業家型人材の地域へのマッチング数【8.3、8.9】                      | 2018年3月 9 人（累計）    | 2020年 24 人（累計）   | 2030年 60 人（累計）    | 29%    |
| 6  | ヘルスツーリズム受入数（年間）【3.4、8.9、15.2】                   | 2018年3月 0 人/年      | 2020年 78 人/年     | 2030年 300 人/年     | 26%    |
| 7  | 町の資源を活用した健康プログラム開発件数【3.4、8.9、15.2】              | 2018年3月 0 件（累計）    | 2020年 2 件（累計）    | 2030年 15 件（累計）    | 13%    |
| 8  | ローカルベンチャースクール開催数【4.4、8.3】                       | 2018年3月 4 回/年      | 2020年 0 回/年      | 2030年 4 回/年       | 0%     |
| 9  | 町産材を活用した建築物の増【11.c】                             | 2018年3月 0 件（累計）    | 2020年 1 件（累計）    | 2030年 5 件（累計）     | 20%    |
| 10 | ゼロ・ウェイスト関連新規事業所数【9.4、12.5、12.a、13.2、17.7、17.17】 | 2018年3月 4 事業所（累計）  | 2020年 6 事業所（累計）  | 2030年 15 事業所（累計）  | 18%    |
| 11 | ごみのリサイクル率【9.4、12.5、12.a、13.2、17.7、17.17】        | 2018年3月 79.7 %/年   | 2020年 81.1 %/年   | 2030年 85 %/年      | 26%    |
| 12 | ぐるくショップの横展開数【9.4、12.5、12.a、13.2、17.7、17.17】     | 2018年3月 0 件（累計）    | 2020年 2 件（累計）    | 2030年 10 件（累計）    | 20%    |
| 13 | 企業版ふるさと納税寄付企業数【9.4、12.5、12.a、13.2、17.7、17.17】   | 2018年3月 0 社/年      | 2020年 0 社/年      | 2030年 5 社/年       | 0%     |

## (5) 「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

No.1:新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、当初値より出荷数が大きく減少したが、コロナ渦の中でも飲食店の営業が再開すれば、目標値に近づけることも可能であるため、現時点では販路拡大・品質改善等を目指す。

No.6:当初値よりは増えているが、コロナの影響を受け、昨年度よりは大きく減少している。しかしながら、ヘルスツーリズムの人気は高く、コロナ渦を乗り切れれば、目標値に近づけることは可能であるため現時点では、プログラムの開発に力をいれたい。

No.8:当初値で実際に取り組んでいた人材が、町を離れてしまい2020年度については、開催することができなかった。No.4、No.5と併せて町内の起業家の推進のため、人材の確保を行い、目標値にむけて実施していきたい。

No.11:概ね達成しているが、現状の分別方法ではこれ以上目標値に近づけることが困難であるため、分別方法と併せて、ゴミにならない商品づくりへの啓発及びゴミにならないものを購入するという消費者側への啓発に力をいれたい。

No.13は、今年度より始まった制度であるため、今後目標値に近づけるためPRしていく。

## 1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2018年～2020年

## (1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

| No | 取組名                                       | 指標名                     | 当初値                 | 2018年実績       | 2019年実績       | 2020年実績      | 2020年目標値      | 達成度(%) |
|----|---|-------------------------|---------------------|---------------|---------------|--------------|---------------|--------|
| 1  | 彩山（いろどりやま）を活用した産業振興事業                     | いろどり山ラポへの参加者数           | 2018年3月 421名/年      | 1,331名/年      | 856名/年        | 526名/年       | 1,000名/年      | 18%    |
|    |   | いろどり山ラポの売上創出額           | 2018年3月 243,940円/年  | 14,350,875円/年 | 14,625,489円/年 | 6,300,000円/年 | 16,000,000円/年 | 38%    |
|    |   | 農林業関係者の移住者及び彩関連ビジネス創出者数 | 2018年3月 2名（累計）      | 2名（累計）        | 5名（累計）        | 6名（累計）       | 10名（累計）       | 50%    |
| 2  | ゼロ・ウェイストブランドを活用したサステイナブルセンターの自立型運営新組織創設事業 | ゼロ・ウェイストに呼応する企業誘致数      | 2018年3月 4社（累計）      | 4社（累計）        | 5社（累計）        | 6社（累計）       | 10社（累計）       | 33%    |
|    |   | ゼロ・ウェイストブランドの効果による新規来町者 | 2018年3月 11,000人（累計） | 24,834人（累計）   | 32,640人（累計）   | 48,177人（累計）  | 30,000人（累計）   | 196%   |
|    |   | 誘致企業による経済効果             | 2018年3月 6,253万円（累計） | 11,419万円（累計）  | 15,989万円（累計）  | 19,653万円（累計） | 15,000万円（累計）  | 153%   |
| 3  | 自治体広域連携による「ローカルベンチャー」推進事業                 | ローカルベンチャーによる売上規模        | 2018年3月 24,900万円/年  | 31,000万円/年    | 35,100万円/年    | 31,310万円/年   | 50,000万円/年    | 26%    |
|    |   | 新規起業家人数及び新規事業創出数        | 2018年3月 4件（累計）      | 7件（累計）        | 7件（累計）        | 11件（累計）      | 10件（累計）       | 117%   |
|    |   | 起業家型人材の地域へのマッチング        | 2018年3月 9人（累計）      | 14人（累計）       | 19人（累計）       | 24人（累計）      | 15人（累計）       | 250%   |

## (2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

- ・2020年度に、本町でワーキングスペース（上勝ベンチャーHUBステーション）が完成した。県費補助金を活用し、その施設の運営方法を学ぶ人材育成研修を今年度に行うことになっており、その他、同事業者による新しいワーケーションプランの構築や上勝企業塾の開催を予定しており、自走に向けて準備をすすめている。
- ・また、ゼロ・ウェイスト認証制度（運営：一般社団法人ゼロ・ウェイスト・ジャパン）を導入し、ゼロ・ウェイストのブランド力の活用により、事業者の経済効果への向上につなげている。（ゼロ・ウェイストへの取り組みを評価し、事業者にとってのブランド価値とする。また、ゼロ・ウェイストを目的に来町する訪問者を店舗に回遊させる。さらには、購買力が個人よりも大きな店舗がゼロ・ウェイスト商品や仕入れを推進することでより大きな「消費者の声」を形成する等）
- ・企業数社により、ヘルスツーリズムのメニュー開発を行い、いまままで逃していた客層をターゲットとすることにより、経済効果につなげている。

## (3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

彩山を活用した事業について、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、昨年度より、参加者数、売上創出額ともに大きく減少したが、コロナ禍を乗り越えることができれば目標値に近づけることは可能である。また、少人数の参加を促す事業の展開とそのメニュー数を増やすことにより改善を図りたい。

ローカルベンチャーによる売上についても、コロナの影響を受け減少傾向となった。前述同様、コロナ禍でも展開できるような事業を創出し、ワーキングスペース等も活用し、改善を図りたい。

起業家型人材の地域へのマッチングについては、上勝起業塾の開催もあり、順調にのびている。そのおかげもあり新規起業家人数にもつながっている。

## (4) 有識者からの取組に対する評価

- ・コロナ禍の影響の中で、農産物出荷、ツーリズム等は計画通りにいかないものの作付面積の拡大、マッチング等で努力していることは評価できる。
- ・ワーキングスペースと、ゼロウェイスト等の上勝価値を活用する新たなビジネスモデル、地域スタイルを構築することをSDGsで取り組み、結果、発展ともに評価できる工夫を期待する。
- ・新型コロナウイルスの影響がヘルスツーリズム受入数、ローカルベンチャースクール開催数に見られる中で、ゼロウェイストに関わる新規来町者数や新規起業家数、起業家マッチング数が増大している点は評価できる。これらは新型コロナウイルスにより喚起された人々のローカルな地域への関心、ゼロウェイストへの関心をうまく活かしたといえると思料する。
- ・主要取組の3本柱の1つとして位置づけられている自治体広域連携による「ローカルベンチャー」推進事業について、売上規模に関しては、未だ目標達成に至っていないものの、新規事業創出数やマッチング面では所要の進捗状況となっており、上勝起業塾の開催など今後の更なる発展が期待される。また「全国の他の自治体（11団体）との連携」について言及があったが、具体的にはどのような連携取り組みを行っているか、また、将来の活動への参画推進に向け今後どのような方向を目指しているかについて共有されることが望まれる。
- ・小規模の自治体で全国のモデルになる事業を長年にわたって築いている。SDGsの目標達成に照して枠組みを構成されることを期待する。
- ・民間企業との連携の体制はあるが、上手く報告できていない。今後記述するときに民間企業の動きも加えるように、加えて、SDGs的循環の視点でも記述が望まれる。